

## 第5回都市科学シンポジウム「都市を複眼的に思考する」

### 開催報告

---

2022年2月19日(土)、オンラインにて、第5回都市科学シンポジウム「都市を複眼的に思考する」を開催いたしました。当日は、都市科学部1年生や都市科学部担当教員を中心に、第1部は約240名、第2部は約190名程度の方に参加いただきました。

はじめに、開催挨拶として、梅原出学長から、大学の取り組みに対する都市科学部や都市科学部生へのコミットを期待する言葉や、文理融合や知の統合というミッションと「複眼的な思考」は相通ずるものがあり、本シンポジウムを楽しみにしていると挨拶がありました。



第1部は、「複眼的思考から読み解くパラグアイのスラム～コミュニティ・国家・南米大陸～」と題してPlenary Sessionを行いました。藤掛洋子都市科学部長・教授からの話題提供を受け、パネリストの建築学科・松本由香教授、都市基盤学科・田中伸治教授、都市社会共生学科・三浦倫平准教授、進行役の環境リスク共生学科・石川正弘教授という専門分野の異なる、学科を超えた教員でのディスカッションを通じて、都市を複眼的に思考するというを行いました。

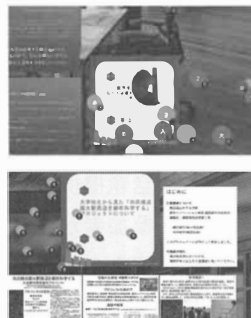


上記ディスカッション中、Slido(オンライン質疑応答ツール)を使用して参加者の方からの質問を随時受け付け、都市社会共生学科2年生の入江遥

斗さんが、Slidoを通じた参加者からの質問をパネリストに投げかけるといった形で、参加者の方との一体感をつくる、インタラクティブなシンポジウムの開催を試みました。

また、第1部の終盤では、都市科学部ロゴ表彰が行われ、3名の方が表彰されました。

学生企画の第2部では、「都市科学／都市科学部をビジュアライズする」ことを目的として、SpatialChat（オンラインミーティングツール）を使用し、オンライン上でのポスターセッションを行いました。約40の様々なテーマの発表がAグループとBグループの2グループ制で行われ、登壇者と参加者との活発な議論を通じて、都市科学／都市科学部のビジュアライズを目指しました。



第2部終了後は、SpatialChat上での懇親会を開催しました。ここでも活発な議論が続き、改めて「都市」を考える機会となったようです。

最後に、本シンポジウムの実行委員長である石川正弘教授より閉会の挨拶があり、13時30分から17時30分という計4時間のシンポジウム開催が終了しました。

今回のシンポジウムは、今までの都市科学シンポジウムから大きく変わった企画となりましたが、参加者の方々に積極的にご参加いただき、また、第2部の登壇者の方をはじめ、その他多くの方々のご協力があったり開催することができました。御礼申し上げます。

都市科学シンポジウム実行委員一同